

【市外中学校の部 入賞】

海との距離

伊勢市立港中学校 三年

牛江 凜

地球の海の割合は七割で

人の体の水の割合も約七割。

まるで体の中に地球があるようだ。と、

誰かが言った。

私が地球ならば、とんでもない水不足だろう。

体が硬い。

水分がないみたいにな、体がカラカラして

心臓の奥の奥の奥が痛む。

生きる、人形。そんな気分。

今、海を見て心が騒ぐかな。

波音を、太陽の日差しを思いかえして、

胸を踊らせることができるのか。

違った。どこかに売っていた、「波の音」

とかが収録されているCDを思い出しただ

けだった。

胸を踊らす。なんて、そんなこと。

できなかった。

できなかったよ。

できなかったんだ。

海が遠い

置いていかないで
私をずっと、そばに
いさせて。

私を、私が、私が。

私が、海から離れたんだ。

こんなにも遠のいたんだ。

どうして人間はそばに
あるとほうっておくの
に、いなくなると欲する
んだろう。

でも、もう遅い。

私も、そんな人間の一人。

次、海に逢うのはいつ
だろう。

いつでも逢えるように、
ずっといてね。
ずっと、変わらないで。